

令和2年度

秋田市エイジフレンドリーシティ
市民意識調査報告書

令和2年12月

秋田市

目次

調査結果の概要	1
1. ご自身の生活の質について	1
2. 公共交通機関、屋外環境について	1
3. 住環境について	1
4. 年齢を重ねることについて	1
5. 情報の入手について	2
6. 医療および介護・福祉について	2
7. 趣味、地域活動、社会活動について	2
8. 社会参加について	3
9. 就労について	3
10. 新型コロナウイルス感染症の影響について	3
11. 暮らしについて	3
12. 基幹指標と意識指標の相関関係	4
13. 高齢者政策等についての意見	4
第1章 調査の概要	5
1. 調査目的	5
2. 調査項目	5
3. 調査の設計	5
4. 回答結果	5
5. 報告書の見方	5
第2章 回答者の属性	7
1. 性別	7
2. 年齢	7
3. 家族構成	8
4. 住んでいる地域	8
5. 秋田市での居住年数（通算）	10
6. 障害者手帳の所持又は要介護認定の状況	10
第3章 調査結果の分析	13
1. ご自身の生活の質について	13
2. 公共交通機関、屋外環境について	14
3. 住環境について	32

4.	年齢を重ねることについて.....	42
5.	情報の入手について.....	51
6.	医療および介護・福祉について.....	56
7.	趣味、地域活動、社会活動について.....	71
8.	社会参加について.....	85
9.	就労について.....	99
10.	新型コロナウイルス感染症の影響について.....	104
11.	暮らしについて.....	109
12.	基幹指標と意識指標の相関関係.....	134
13.	高齢者政策等についての意見.....	139
	【参考資料】.....	165
1.	集計表.....	165
2.	調査票.....	264

調査結果の概要

調査結果の概要

1. ご自身の生活の質について

・自身の生活の質が「良い」（「最高に良い」＋「とても良い」＋「良い」）の割合が6割台で、一方、「良くない」（「良くない」＋「あまり良くない」）の割合は3割弱となり、「良い」が「良くない」の割合を上回っている。

2. 公共交通機関、屋外環境について

- ・外出の際の主な移動手段は、「自家用車・バイク」の割合が7割台と特に高くなっている。
- ・過去1年間の公共交通機関の利用については、「年に数回しか利用しない」の割合が5割近くと最も高く、次いで「まったく利用したことがない」が2割台で続いている。
- ・公共交通機関の利便性については、否定的な回答が肯定的な回答を幾分上回っている。
- ・近所を安心して外出できると思うかについては、8割近くが「思う」（「思う」＋「どちらかといえば思う」）と答えている。
- ・外出時の安心や満足度については、「日常の買い物」や「医院や病院への通院」に肯定的な回答が多いが、「ベンチやトイレなどの休憩場所の数や質」などについては否定的な回答が多い。

3. 住環境について

- ・現在の住宅については、「持家（一戸建て）」の割合が8割近くと特に高く、前回調査よりもさらに割合が上昇している。
- ・現在の住環境への満足度については、「満足」（「満足」＋「やや満足」）の割合が5割近い一方、「不満」（「不満」＋「やや不満」）の割合は1割台で、満足感が不満感を上回っている。
- ・自宅の大規模なリフォームや建て替えについては、「住宅購入後一度もリフォーム等はしていない」の割合が3割台で最も高く、次いで「賃貸又は貸家なのでリフォームはしていない」が1割台で続き、一方、これまでにリフォーム等をした割合は合計で4割近くとなっている。
- ・自身が高齢者となり、心身の衰えを感じた時に住みたい住居については、「現在の住宅に住み続ける」（「そのまま」＋「リフォーム等を実施」）との回答が5割強を占めており、「わからない」との回答も3割強と多い。
- ・建て替えやリフォーム等を実施する際の不安については、「手持ちの現金が減り、生活の負担になることが心配」の割合が6割近くと特に高くなっている。

4. 年齢を重ねることについて

- ・年齢を重ねることについては、2割弱の方が否定的な回答をしているが、5割近くの方が肯定的にとらえており、肯定的な回答の方が多くなっている。
- ・高齢者となることについては、全体としては肯定的な見方が否定的な見方より多く、孤立しているとの回答も少ないが、「ボランティアや地域活動で社会に貢献している」と「経験や知識が豊富になる学びをしている」については、否定的な回答の方が多くなっている。

5. 情報の入手について

- ・ 市政に関する情報の主な入手先については、「市の広報誌（広報あきた）」の割合が8割近くと特に高く、「テレビやラジオ」と「新聞」が5割台で続いているが、この上位3項目については前回調査に比べていずれも幾分割合が低下している。一方、「市のホームページ」割合は1割台ながら、前回調査に比べて割合が上昇している。
- ・ 福祉に関するサービスや相談窓口での情報の入手しやすさについては、否定的な回答が3割弱で、一方、肯定的な回答が2割台となり、否定的な回答の方が幾分多くなっている。
- ・ 福祉サービスや相談窓口に関する情報の主な入手先については、「行政（広報紙などの紙媒体）」が5割と最も割合が高く、これに「新聞」と「家族や親族」が3割前後で続いている。

6. 医療および介護・福祉について

- ・ 医療および介護・福祉サービスの充実については、肯定的な回答が4割弱で、一方、否定的な回答が2割弱となり、肯定的な回答の方が多くなっている。
- ・ 頼りになる医師の存在については、全体では5割強の方が「いる」と答えている。
- ・ 地域包括支援センターの認知度については、「知らない」の割合が6割近くと多くなっている。
- ・ 高額療養費制度や限度額適用認定証の認知度については、「両方とも知っている又は利用したことがある」の割合が4割近くと最も高く、これに「高額療養費制度を知っている又は利用したことがある」と「両方とも知らない」がともに2割台で続いている。
- ・ 高額介護サービスや高額医療合算サービス費については、「両方とも知らない」の割合が7割台と特に高い割合を占めている。
- ・ 医師などからの病状等の説明の理解度については、肯定的な回答が7割台と多くなっている。
- ・ 適切な医療や介護・福祉サービスを自宅でするために思うことについては、「在宅ケアについて、家族の理解が得られない」を除き、他の各項目ではいずれも「思う」（「強く思う」＋「思う」）が「思わない」（「全く思わない」＋「思わない」）の割合を上回っている。

7. 趣味、地域活動、社会活動について

- ・ 余暇の過ごし方の満足度については、「満足」（「満足」＋「どちらかといえば満足」）の割合が6割強で、一方、「不満」（「不満」＋「どちらかといえば不満」）の割合は1割強にとどまり、「満足」が「不満」の割合を大幅に上回っている。
- ・ 過去1年以内の地域活動への参加については、「参加したことがない」が7割近くと高い割合を占め、この割合は前回調査より上昇している。
- ・ 参加した地域活動については、「町内会、自治会などの地域自治活動」が8割台と特に高い割合を占めており、この割合は前回調査よりさらに上昇している。
- ・ 参加した地域活動のやりがいについては、肯定的な回答が6割弱で、一方、否定的な回答が1割強となり、肯定的な回答の方が大幅に多くなっている。
- ・ 地域活動に参加しない又は参加できない理由については、「仕事で忙しく時間が取れない」が3割近くと最も高いものの、その理由は多岐にわたっている。

8. 社会参加について

- ・過去1年間の社会参加については、「参加したことがない」が7割台と高い割合を占め、この割合は前回調査の6割台から上昇している。
- ・参加した活動については、「サークル等団体などに所属した趣味、スポーツ活動等」の割合が6割強と最も高く、次いで「お祭りや地域行事等」が3割近い割合で続いている。
- ・活動に参加しなかった理由については、「忙しい」と「活動について知らない」が3割台とほぼ同様の割合で高くなっているが、この割合は前回調査に比べてともに低下している。
- ・活動に参加するための必要な条件については、前回調査同様、「活動場所が身近にあること」と「一緒に活動する仲間がいること」がともに5割台で高い割合となっている。

9. 就労について

- ・現在の就労状況については、「働いていない」の割合が4割近くで最も高く、「正規雇用」が3割台で続いているが、前回調査に比べて「働いていない」の割合が幾分低下した一方、「正規雇用」の割合は上昇している。以下については、「非正規雇用」が2割近くで続いている。
- ・仕事のやりがいについては、肯定的な回答が前回調査とほぼ同様の6割台を占め、一方、否定的な回答は1割強にとどまり、肯定的な回答の方が大幅に多くなっている。
- ・仕事をする理由については、「安定した収入を得るため」の割合が5割強と高くなっている。
- ・何歳まで仕事をしたいかについては、「働けるうちはいつまでも」と「60歳～65歳」がともに2割台で、他の回答より割合が高くなっている。
- ・高齢期に仕事を続けていくうえで重要な条件については、「老齢年金が減額されない」の割合が3割強で最も高く、次いで「働く時間に融通がきく」が2割台で続いている。

10. 新型コロナウイルス感染症の影響について

- ・新型コロナウイルス感染症の流行前後の外出頻度については、「減った」（「減った」＋「少し減った」）の割合が8割近くと高い割合を占めている。
- ・新型コロナウイルス感染症の流行前後の家族以外との交流頻度については、「減った」（「減った」＋「少し減った」）の割合が7割台と高い割合を占めている。
- ・新型コロナ禍での地域活動等への参加の条件については、「感染予防策を講じていれば参加したいと思う」の割合が6割近くと最も高く、「家族や親族から批判を受けなければ参加したいと思う」が2割台で続いている。

11. 暮らしについて

- ・生きがいをもって暮らしている方が5割強おり、前回調査とほぼ同様の割合となっている。
- ・秋田市へ住み続けたいと思っている方が8割近くおり、前回調査より割合が上昇している。
- ・地域活動や社会参加について「参加したことがある」方が「参加したことがない」方に比べて、生きがいや秋田市への永住、地域とのつながりについてより肯定的にとらえている。

【エイジフレンドリーシティの認知度】

「今まで見聞きしたことがない」方が依然4割以上いるが、この割合は前回調査の6割台から大幅に低下するなど、エイジフレンドリーシティの認知度には改善が見られる。また、地域活動等へ「参加したことがある」方の認知度が「参加したことがない」方に比べて高くなっている。

12. 基幹指標と意識指標の相関関係

- ・基幹指標【自分らしく暮らすことが出来ていると感じている高齢者の割合】と意識指標の9項目の関連については、「余暇の過ごし方について満足しているか」と「仕事にやりがいを感じているか」については基幹指標との“正の相関”が見られ、「住環境に満足しているか」などの6指標については基幹指標との“弱い正の相関”が見られる。
- ・基幹指標【あらゆる世代にとって住みよいまちであると感じている人の割合】と意識指標の9項目の関連をみると、「住環境に満足しているか」や「交通機関は便利で利用しやすいか」などの8指標については基幹指標との“弱い正の相関”が見られる。
- ・基幹指標【地域とのつながりがあると感じている高齢者の割合】と意識指標の9項目の関連をみると、「地域活動にやりがいを感じたか」や「余暇の過ごし方について満足しているか」などの6指標については基幹指標との“弱い正の相関”が見られる。

13. 高齢者政策等についての意見

- ・秋田市が取り組むべき高齢者政策等についての自由回答欄には、480人から531件（自由記述に該当しない記載については、集計から除外している）の意見があった。この意見を秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画の8つの基本目標により分類した結果は本文に記載の通りである。分類項目では（「その他」を除く）、「8 多様な生活支援サービスを利用できる地域づくり」に関する記述が89件と最も多く、次いで「2 交通機関の利便性の向上」に関する記述が82件で続いている。

第1章 調査の概要

第1章 調査の概要

1. 調査目的

本調査は、令和3年度に策定する第3次秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画の基礎資料として、市民の行政ニーズや高齢者福祉施策への評価等を把握することを目的として実施した。

2. 調査項目

- | | |
|---------------------|--------------------------|
| (1) ご自身の生活の質について | (7) 趣味、地域活動、社会活動について |
| (2) 公共交通機関、屋外環境について | (8) 社会参加について |
| (3) 住環境について | (9) 就労について |
| (4) 年齢を重ねることについて | (10) 新型コロナウイルス感染症の影響について |
| (5) 情報の入手について | (11) 暮らしについて |
| (6) 医療および介護・福祉について | |

3. 調査の設計

- (1) 調査対象 20歳以上の市民3,000人
- (2) 調査方法 郵送による無記名アンケート
- (3) 調査期間 令和2年9月23日～令和2年10月7日

4. 回答結果

- (1) 回答者数 2,079人 (回答率 69.3%)
- (2) 有効回答者数 2,079人 (有効回答率 69.3%)

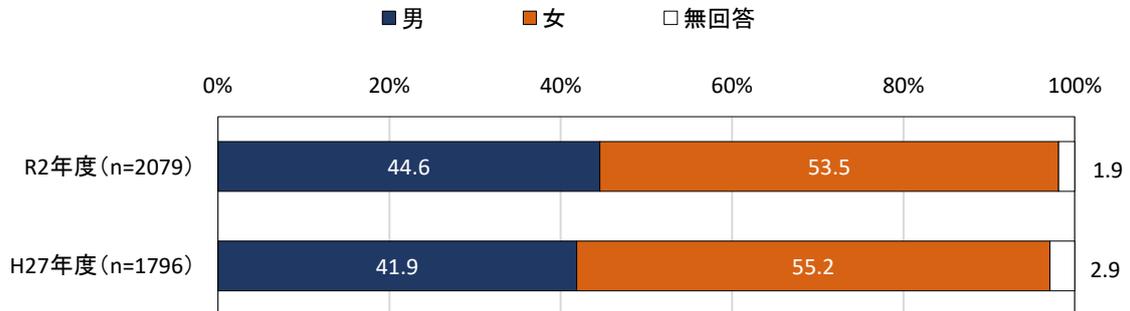
5. 報告書の見方

- (1) 調査数 (n=Number of cases) とは、回答者総数または属性分類別の回答者数を示している。
- (2) 回答の構成比は百分率であらわし、小数点第2位を四捨五入して算出している。そのため、回答比率を合計しても100.0%にならない場合がある。
- (3) 複数回答 (複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式) の設問の場合、各設問の調査数を基数として回答比率を算出するため、全ての選択肢の比率の合計は100.0%を超える。
- (4) 調査票における設問の語句等を短縮・簡略化して標記している場合がある。
- (5) 前回調査 (平成27年度実施) と同様の設問があった場合、前回調査の全体回答結果を掲載している。

第2章 回答者の属性

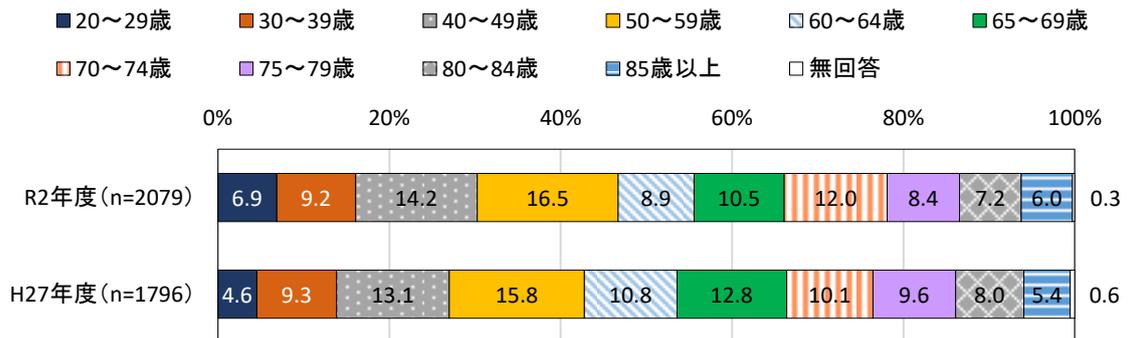
第2章 回答者の属性

1. 性別

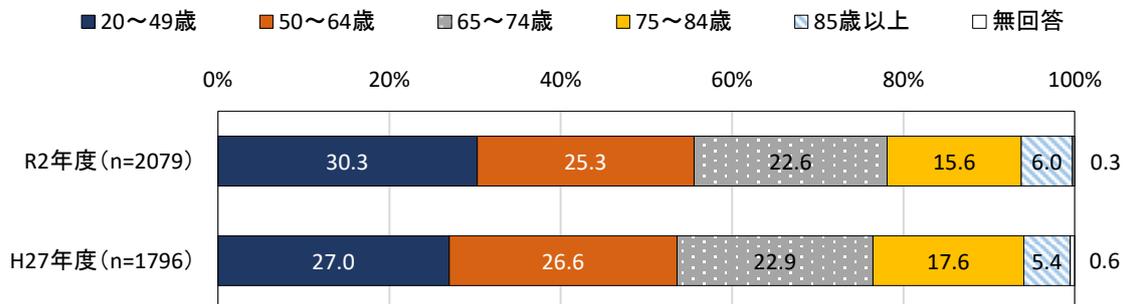


2. 年齢

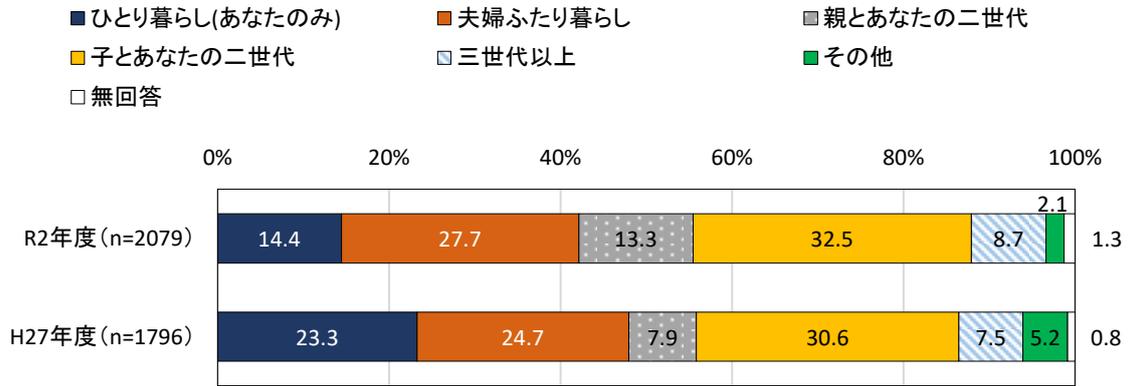
(1) 10区分 (調査票での回答に基づく分類)



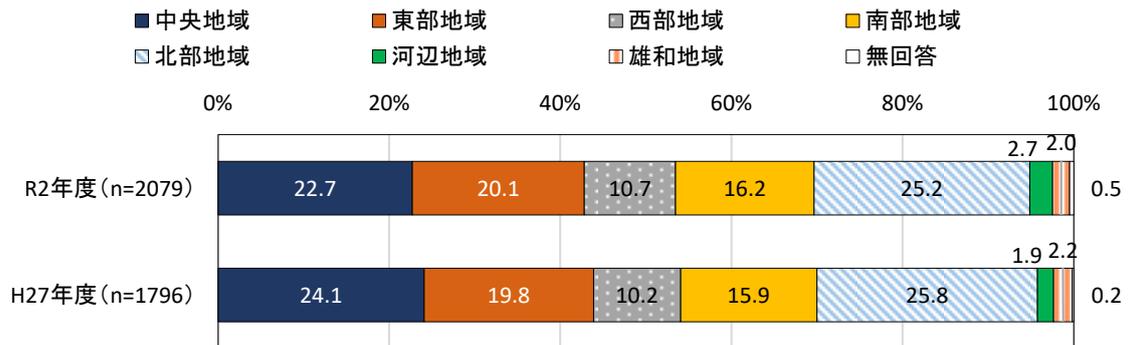
(2) 5区分 (10区分を統合)



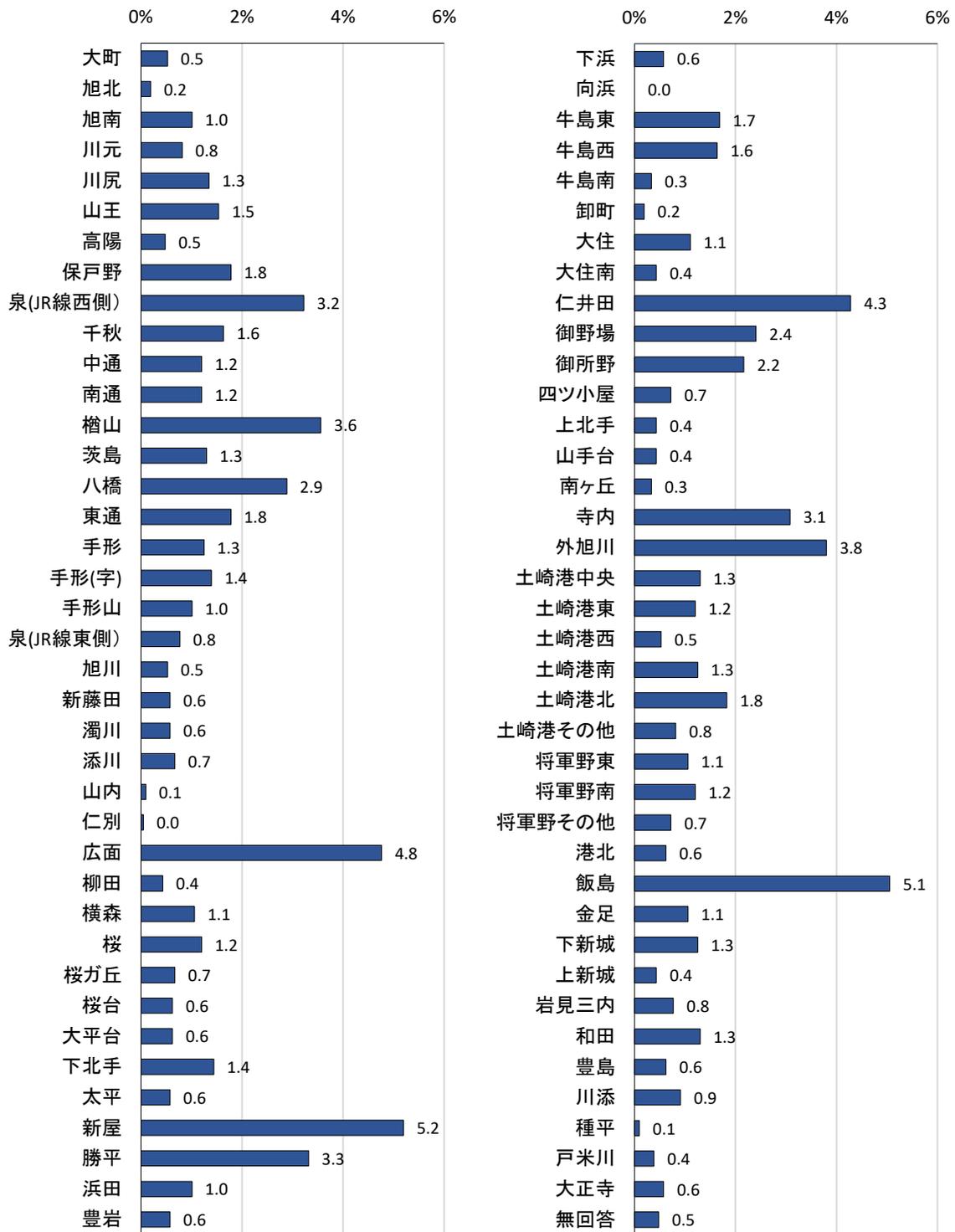
3. 家族構成



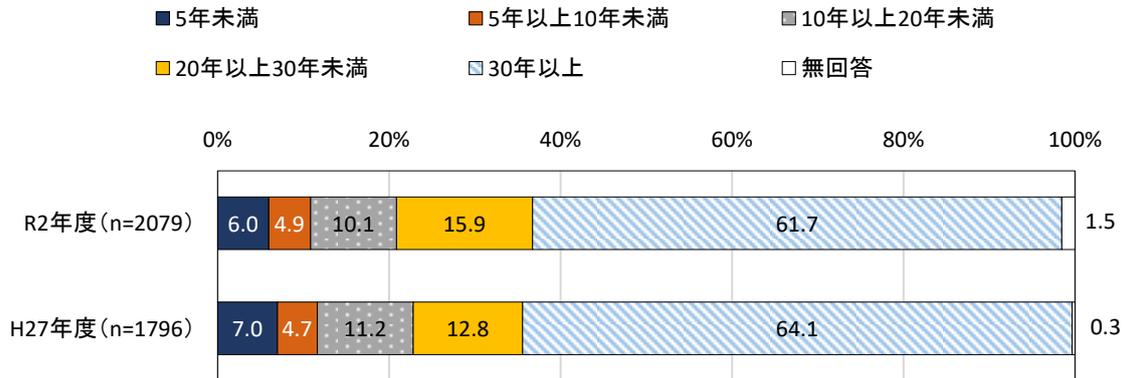
4. 住んでいる地域



※ 住んでいる地域 詳細区分 (77 区分)

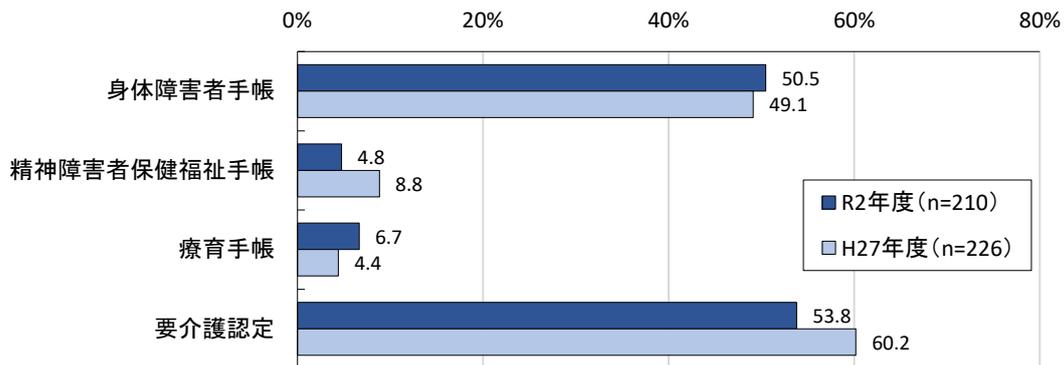


5. 秋田市での居住年数（通算）

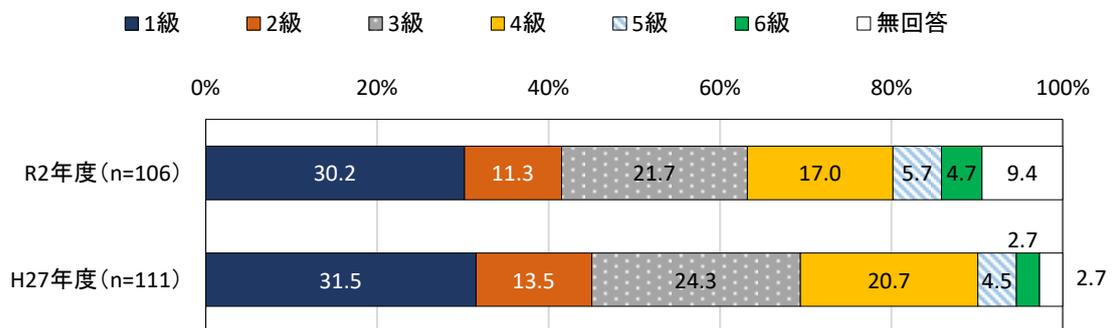


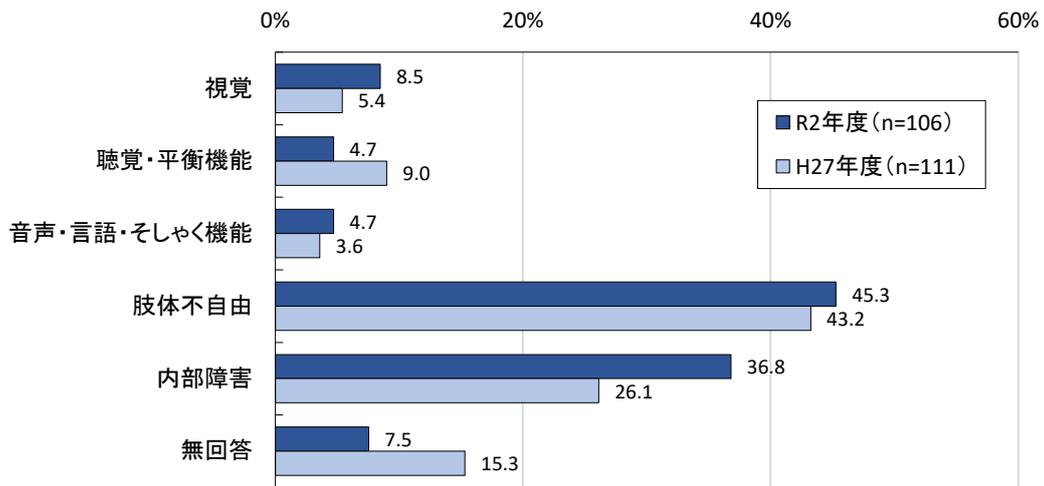
6. 障害者手帳の所持又は要介護認定の状況

(1) 障がい者手帳の所持又は要介護認定の状況

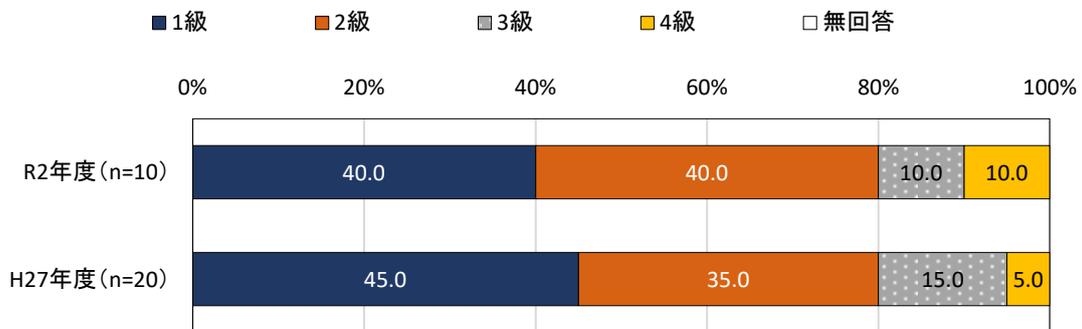


(2) 身体障害者手帳の等級および障害の種類

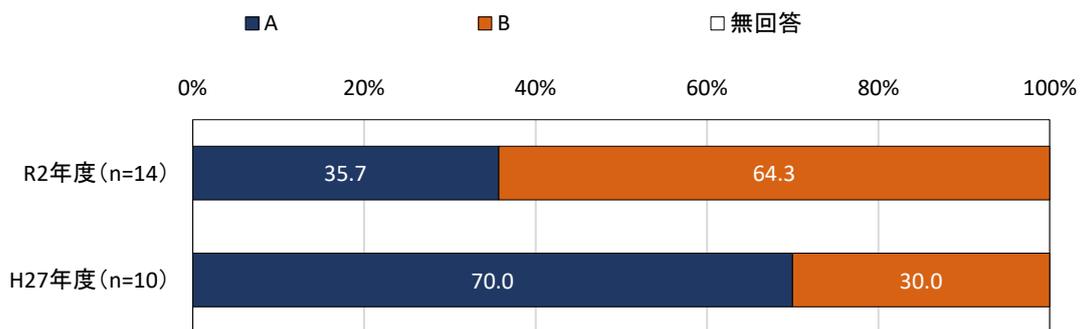




(3) 精神障害者保健福祉手帳の等級



(4) 療育手帳の種類



(5) 要介護認定度

